

03年度文科省ORC整備事業 –フランス革命と日本・アジアの近代化–

第2回国際シンポジウム開く



03年度文部科学省オープン・リサーチ・センター整備事業に選定され、5年間の研究が進行中の「フランス革命と日本・アジアの近代化」プロジェクトによる第2回国際シンポジウム「アジアにおける歴史教育とフランス革命」(大学院社会知性開発研究センター／歴史学研究センター主催)が、3月5・6の両日、神田キャンパスで開催され、延べ約90人の研究者が活発な討論を展開した。

シンポジウムでは、インド＝ジヨドプル大学のリラ・ムカージー助教授、ベトナム国立大学ハノイ校のディン・スアン・ラム名誉教授、中国＝華東師範大学の楊彪(ヤン・ビャオ)助教授、日本＝青山学院高等部の松本通孝教諭、韓国＝石串高等学校の車周昊(チャ・ジュホ)教諭がそれぞれ、自国におけるフランス革命と歴史教育について現状を報告。これを受けて本学の田中正敬助教授がコメントし、飯尾秀幸教授の司会で全体討論に入り、最後に青木美智男歴史学研究センター長があいさつした。

第3回国際シンポジウムのお知らせ

第3回国際シンポジウムを左記の日程で開催。

日時 05年6月18日(土)14時～19日(日)10時～

場所 神田6号館5階 会議室

テーマ 「21世紀におけるフランス革命史研究の現状と課題」

☆当日はシンポジウムと並行して7号館1階で「ベルンシュタイン文庫」を展示します。

(詳細は5月号に掲載)

文科省・(財)民間放送教育協会主催 「教育と放送の役割」シンポ神田校舎で開かる

青少年にとって望ましいテレビ番組を考える「教育と放送の役割」シンポジウム(主催／文部科学省・(財)民間放送教育協会、協力／専修大学)が専修大学神田キャンパスで380人が参加して開催され、記念講演とパネルディスカッションが行われた。本学の嶋根克己文

学部教授もパネリストとして参加した。

記念講演では川淵三郎氏((財)日本サッカー協会キャプテン)が講演。Jリーグチェアマンなどを務め日本サッカー界を牽引してきた体験談を披露。パネルディスカッションは、嶋根教授のほか下村博文文部科学大臣政務官、市川森一日本放送作家協会理

事長、女優の秋野暢子さん、中川惇(株)東芝常任顧問、中井靖治(株)テレビ朝日常務取締役報道局長ら6人が2時間半にわたって活発に意見交換をし、テレビが子供たちに果たすべき役割や可能性を探った。

校友会支部だより

<札幌支部総会>

11月25日、札幌市の「札幌全日空ホテル」で。本部1人、会員54人が出席。厚谷登巳夫氏(昭53商)が司会。大槻弘孝支部長(昭38商経)のあいさつに続き、議事に移り、会務を承認した。

<山梨県支部総会>

11月27日、甲府市の「ホテル談露館」で。本部1人、来賓1人、会員13人が出席。太田孝氏(昭48経済)が司会。小林進一支部長(昭35商経)、育友会山梨支部の興石正巳支部長があいさつ。議事に移り、会務を承認した。

<30会総会>

12月11日、神田校舎で。本部2人、会員21人が出席、7年振りの総会を催した。中野良輔氏(法)が司会。高埜鐵雄代表幹事(商経)のあいさつの後、小林清校友会長が祝辞を述べた。議事に移り、会務を承認した。

<32会総会>

12月11日、神田校舎で。本部1人、大学2人、会員44人が出席。柴原正幸氏(商経)が司会。春日良茂会長(法)のあいさつに続き、三島英雄専修大学専務理事、小林校友会長が祝辞を述べた。議事に移り、会務を承認した。

<UFJ銀行鳳会(仮称)新年会・新人歓迎会>

1月14日、中央区の「がんこ銀座一丁目店」で。会員40人が出席。最上将秀氏(平9商)が司会。石田泰一氏(昭55法)があいさつ。今年入社が内定している学生も交え、親睦を図った。

<長崎支部総会>

1月15日、長崎市の「銀鍋」で。本部1人、会員23人が出席。梅本和彦氏(昭60商)が司会。伊東利勝支部長(昭20経学)、吉江正春校友会副会長があいさつ。続いて議事に移り、会務を承認。役員改選が行われ、新支部長に山下洋一郎氏(昭49経済)を選任した。

<短大同窓会・専大校友会美唄支部合同新年会>

2月4日、美唄市の「ホテルスエヒロ」で。本部1人、大学16人、来賓13人、両支部の会員52人が出席。千葉一夫氏(昭54商)が司会。泉武夫専修大学北海道短期大学長、桜井道夫美唄市長らの祝辞に続き、英伴短大同窓会長があいさつ。今後も「オール専修」を合言葉に集い、力を合わせて専修三大学、地域の発展に寄与していくことを誓った。

<北海道庁鳳会総会>

2月10日、札幌市の「ホテル札幌ガーデンパレス」で。本部1人、来賓2人、会員21人が出席。関口英昭氏(昭54法)が司会。橋本英正会長(昭44法)、坂本副会長があいさつ。議事に移り、会務を承認。また、役員改選が行われ、新会長に三橋俊政氏(昭44経済)を選任した。

<室蘭支部総会>

2月18日、室蘭市の「中島神社蓬峽殿」で。本部1人、会員ら29人が出席。伊藤和夫氏(昭47経営)が司会。宮森克雄支部長(昭42法)、小林校友会長があいさつ。議事に移り、会務を承認した。

<紀北支部総会>

2月18日、和歌山市の「ホテルアバローム紀の国」で。本部1人、会員17人が出席。中林英樹氏(昭44経済)が司会。辻本圭三支部長(昭42法)があいさつ。議事に移り、会務を承認した。



専大校友を訪ねて

佐藤 浩さん(平3経営)

在ルクセンブルク日本国大使館に勤務
(衆院事務局から外務省に出向)

4月15日からルクセンブルク日本国大使館で3年間、「広報文化」の役割を担う。専大3年次の時に友人に誘われて勉強団体「公鳳会(こうほうかい)」に入会。そこで強烈な出会いがあった。

「『絶対に公務員になるんだ』という強い意志を育んでくださった宮下誠一郎先生(現名誉教授)です。熱意に応えようと学生だけで自主ゼミを作ったりして結束していました。昼休み時間を割いて小テストを実施してくれた職員の方々のおかげもあり、仲間のほとんどが初志貫徹し、公務員試験に合格することが出来ました」

最初に配属された会計課ではコンピュータ会計が導入されたばかり。学部で学んだことがさっそく生かされた。委員会の運営を補佐する委員部から、議長公邸で議長の秘書業務を2年間担当。各国要人の案内や、外国出張の随行など貴重な経験を積む。総務省出向、委員会における議案等の調査などを担当する調査局を経て、今回の出向・海外勤務が決まった。昨年7月からは人事課付となり、外務省研修所においてフランス語と外交官としての心得などの研修を受けてきた。

「『日本、を理解していただくためのさまざまな公演や実演、伝統工芸品の展示会などを企画する仕事です。それには私自身も正しく日本文化を理解していなければならないと実感し、その一つとして学生時代に親しんでいた『書道』を再開しようと思っています」と抱負を語る。

「どの部局でも『人とのつながり』を大切にすることを心がけてきました。思わぬところで専大の卒業生と出会い、長く親しくさせていただいている方もいらっしゃいます。海外勤務経験も、戻ってきてからの仕事に役立つと確信しています」

壮行会には、宮下先生も出席してくださった。「一生付き合える仲間、そして尊敬する恩師に出会えた専大に感謝しています」

「第2回神奈川産学チャレンジプログラム」に応募してみよう

(社)神奈川県経済同友会と県内の大学が協同して産学連携による人材育成を目的とした「神奈川産学チャレンジプログラム」を実施します。

詳細は学生生活課掲示・ホームページで確認を。応募規定・テーマ集・応募用紙は学生生活課・教務課窓口まで。

【スケジュール】

▽応募用紙提出＝5月10日(火)・学生生活課・教務課窓口

▽研究テーマについての説明＝テーマ提示企業ごとに5月16日(月)～6月15日(水)の間に実施

▽レポート提出＝10月14日(金)学生生活課・教務課窓口

▽審査＝10月17日(月)～11月15日(火)の間にテーマ提示企業に対してプレゼン

テーションを行う。

【ニュース専修2005年4月号11面】